

評価の透明性

言語聴覚士養成校におけるルーブリック評価の可能性

小山 宏和^{a)}

a 長野医療衛生専門学校 言語聴覚士学科

Hirokazu Koyama^{a)}

a Nagano Medical Hygiene College

要旨：近年、医療系専門職養成教育において学習成果の可視化やコンピテンシー基盤教育への転換が求められている。しかし、言語聴覚士養成教育における座学科目でのルーブリック評価の実践報告は未だ少ない。本研究では、言語聴覚士養成校の1年生14名を対象に、課題研究のプレゼンテーション場面へルーブリック評価を導入し、自己評価の実施および事後アンケート（5件法および自由記述）による意識調査を行った。その結果、「自らのプレゼンを振り返れた」「次回に向けた改善点を明確化できた」の項目で肯定率100%の極めて高い評価が得られ、学生の客観的なリフレクションや行動変容を促す成果が認められた。一方で、評価項目の複合性などの課題も推察され、今後の運用に向けた継続的な改善の必要性が示唆された。

キーワード：ルーブリック評価・構成主義・学習成果の可視化・教育評価・評価の透明性

1 背景

近年、日本の医療系専門職養成教育では、臨床実践に必要な複合的能力を育成するため、CBE（コンピテンシー基盤教育）への転換が加速している。その代表例として、看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、資質・能力を中心に据えた科目設計や評価設計の方法論が提示され、学習成果の可視化が強く求められている¹⁾。こうした動きは看護領域にとどまらず、医学教育や薬学教育など他の

医療系専門職教育にも広がりつつあり²⁾、セラピスト養成教育においても、思考過程や臨床判断などの能力をどのように評価し、可視化するかが重要な課題となっている。現在、多くの専門学校では授業15週（または8週）の終了時（もしくは試験実施後）にシラバスの到達目標に基づいて成績評価が行われている。しかし学生は「どの能力が、どの程度身についたのか」を把握できていないのが

a 長野医療衛生専門学校

〒386-0012 長野県上田市中央 2-13-27

info@nagano-iryousei.ac.jp

現状である。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の活動が増加する一方で、これらの評価基準は明確に言語化されておらず、授業者・学生双方の可視化が不十分である。こうした課題を踏まえると、ルーブリックを導入し、学びのプロセスと成果の見える化は有効ではないかと考えられる。本研究では、言語聴覚士養成校における座学科目へルーブリック評価を導入する可能性について検討する。

2 ルーブリックの概要説明

ルーブリック評価は、米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、課題、評価尺度、評価観点、評価基準の4つの基本的な要素で出来ており、パフォーマンス特性のある授業に対して、テスト法では困難な「思考・判断」「関心・意欲・態度」「技能・表現」という観点の評価に向いている³⁾。ルーブリックは、知識の伝達を主眼とする客観主義的な教育観に基づく評価ではなく、学生が自ら評価指標を内在化し、自己のパフォーマンスを振り返り（リフレクション）することで知識や技能を再構築していく「構成主義」的プロセスを重視する。本実践における評価の枠組みは、教員による一方的な知識付与に留まらない。ルーブリックの提示により、学生が到達目標を能動的に解釈し、自己評価を通じて技能を構造化していく「構成主義的学習観」に基づいている。

3 構成主義学習観

構成主義的学習観は、人間の知識は与えられるのではなく、自ら構成していくという考え方が基礎にある。構成主義的学習観は現代教育の主流になりつつあるアクティブラーニングの基盤となっており重要な考え方であると言える。久保田は、教育分野に即して言い換えると「学習とは主体的

に『意味をつくり出していくプロセス』であり、単なる『知識の転移』ではない。」ということになる⁴⁾。

4 医療職種でのルーブリック評価

医療職種でのルーブリック評価の活用は着実に広がっており各職種を概観すると特徴が理解できる。斎藤らは、看護師成人看護学実習におけるルーブリックの活用は、具体的な評価基準を明示することで学生と教員が共通の基準に基づいて達成度を評価できる有用なツールであることが示されている⁵⁾。そして理学療法士や作業療法士、言語聴覚士の養成校でも導入されている。岩井らは、理学療法臨床実習の実習評価をルーブリック評価にて実施し、従来使用していた評価表とルーブリック評価を比較すると、実習指導者にとって評価の視点が容易に理解でき、アンケートでも肯定的な意見が多かったと報告している⁶⁾。また、山野はルーブリック評価を臨床実習の成績評価として使用し、到達すべき目標と目標達成に向けた実習の方法を臨床実習指導者と学生が共有できるようになり、成績評価の公平性を臨床実習指導者と学生の双方が自覚できるようになったと報告している⁷⁾。さらに兒玉らは「本ルーブリックは特に基本的態度の評価において信頼性・妥当性を持つ評価ツールであり、臨床実習における評価の標準化を支援する有用性が示唆された」と述べている⁸⁾。これまでの医療系教育における活用例は臨床実習中心であったが、近年では座学や学内演習での導入事例も報告されている。例えば服部らは、看護学生が学内学習で手順の再現に留まり援助概念の理解に至らない課題に対し、「患者中心の看護技術」を可視化するためのルーブリックを開発している⁹⁾。このようにルーブリック評価の有用性は広がりつつあるが、言語聴覚士養成教育における座学科目、演習科目での実践報告は未だ少ない。

5 目的

今回は、言語聴覚士養成課程の1年生を対象に、*¹課題研究の内容に対するプレゼンテーションを実施し、ルーブリックによる自己評価を実施する。学生の学習プロセス・事前準備そして評価に対する意識にどのような影響があるのかを明らかにすることを目的とした。

6 方法

実施日：2026年1月6日・13日

対象学年：本専門学校1学年第25期生

対象人数：14名

授業テーマ：課題研究Ⅰ(基礎)

ルーブリック項目例：内容・構成・姿勢・主体性

ルーブリック段階設定：S⇒A⇒B⇒C⇒D

具体的内容：以下のステップに沿ってルーブリック評価の実践を組み込んだ授業を展開した。

1. 事前オリエンテーションと基準の提示：対象学生に対し、ルーブリック評価の意義を説明するとともに、各項目の評価基準について解説を行った。
2. 評価用紙の事前配布：目標とするパフォーマンスを意識した事前準備を促すため、ルーブリック評価用紙を事前に配布した。
3. 発表および自己評価の実施：2026年1月6日・13日の2日間に分けてプレゼンテーション発表会を挙行了。学生は自身の発表が終了した時点で即座に自己評価を行い、評価用紙を提出した。その後、1月8日よりMicrosoft Formsを用いた事後アンケート調査を開始した。

倫理的配慮：対象学生に対し、本調査への協力は任意であり成績評価とは無関係であること、およびプライバシーの保護について事前に説明を行った。アンケートの回答送信をもって本研究への同意とみなし、得られたデータは匿名化処理を施し

た上で統計的に処理した。

7 アンケート内容(Microsoft Forms)

今回はルーブリック評価導入による学習効果・理解度・行動変容・受容性を評価するために、プレゼンテーション後にアンケート(全12項目)を実施した。回答形式は5件法(「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「あまり変えていない」等)で構成され、自由記述欄を2項目設けた。質問項目は以下の4領域に分類した。

① ルーブリックの理解度

ルーブリックの観点やレベルが学生にとって分かりやすいかを評価する項目である。

② ルーブリック評価の学習効果

ルーブリック評価の活用によって、プレゼンテーションの振り返りや可視化がどの程度促されたかを評価する項目である。

③ 行動変容度

ルーブリックの提示が、学生の事前準備や主体的な取り組みなどの行動変容をどの程度促したかを評価する項目である。

④ 自由記述

オープンクエスションにて、ルーブリックの教育的機能と運用面の課題を探索的に把握するための項目とした。

8 アンケート結果

- ・集計期間 2026年1月8日～1月27日(19日間)
 - ・有効回答数：14/14
 - ・集計方法：Microsoft Forms
 - ・方法：単一クラスの受講者を対象に、10項目と自由記述2項目からなるアンケートを実施した。
- 結果：有効回答はN=14。平均値が最も高かったのは「自分のプレゼンを振り返れた」(平均4.79)

(図表 1)と「次回に向けた改善点を明確化」(平均 4.64)(図表 1)で、いずれも肯定率 100%(図表 2)であった。一方、「ループリックの継続利用希望」は平均 3.71(図表 1)、肯定率 57%(図表 2)に留まった。自由記述では「評価基準の明確さ」「分かりやすさ」「資料作成の指針」「改善点の明確化」への肯定的言及が多く、改善要望としては「質疑応答の時間配分」「自己評価と教員評価のずれ」「評価項目の複合性」「タイムキーパー音の音量」等が挙げられた。

9 考察

・学習者の自己評価促進

ループリックにより評価観点や評価尺度が提示されることで学生が自らのパフォーマンスを客観的に振り返り（リフレクション）することが可能となったと考えられる。

・教員間の評価基準統一

評価者によりチェックリストなどではどの視点でみているかにより、評価者間での評価のズレを最小限に抑え、指導および評価の一貫性を担保できる可能性が示唆された。

・評価の透明性の担保

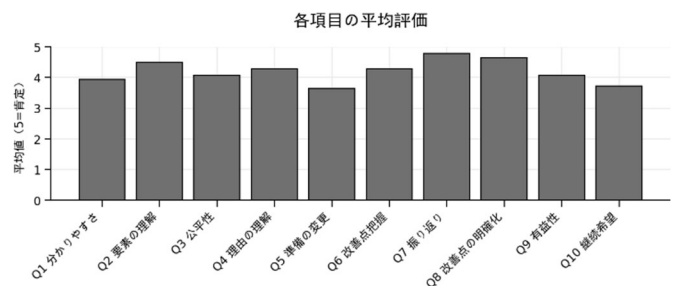
評価基準や評価水準を予め学生に明示しておくことで評価プロセスの透明性が高まり、学生自身が目指すべき到達目標や課題を具体的に把握しやすくなるというメリットが挙げられる。

ループリック評価は様々な場面での応用が期待できる。今回はプレゼンテーション場面での自己評価、他者評価にループリックを導入した。ループリックの内容や構成にはまだまだ改善点があることがアンケート結果から推察された。特に項目が複数にかかっているなど判断がしにくい場面があった。しかしながら学生の主体的な資料の見返しや、発言回数の増加など行動変容が認められたことは成果として挙げられる。ただ回数至上主義になり、肝心の質問内容の質の向上が付いていかな

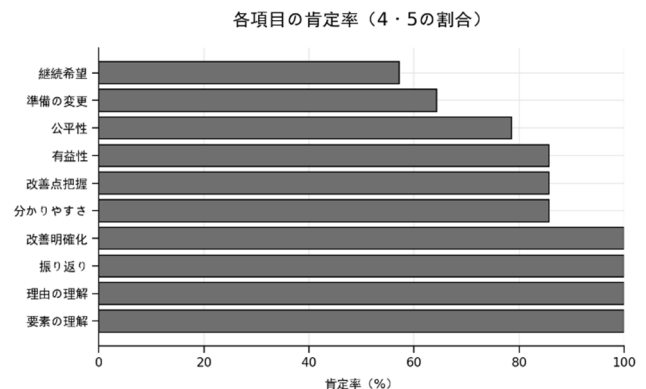
い状態が懸念される。そして行動変容は一度ではまた戻ってしまう可能性があるため、何を評価するのか明記し学生に共有することで行動変容を促し続け習慣へと変容出来ると考える。

今後の展開として早急に全ての授業へ導入には至らないのが実情である。数年単位で教員研修や授業の内容と評価を言語化しループリックを作成していく必要がある。

図表 1 アンケートの平均



図表 2 各項目の肯定率



注釈

*1 課題研究は、長野医療衛生専門学校が提供するカリキュラムの1つで、学生個人に課題を設定させ半期を通じて実験や調査をする授業である。

参考文献または引用文献

- 1) 文部科学省.看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）2024
- 2) 保健医療福祉資格に共通して求められるコンピテンシーの検証と教育カリキュラムの構築に関

する研究報告書

3)ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ(佐藤浩章監訳、井上敏憲、俣野秀典訳). 大学教員のためのルーブリック評価入門.玉川大学出版部,2014

4) 久保田 賢一. 構成主義が投げかける新しい教育. 関西大学総合情報学部, 2000.

5)齋藤奈緒・阿部愛子ら. 成人看護学実習におけるルーブリックの学生と教員による評価に基づく有用性と課題の検討-日本看護学教育学会誌 Vol.32,No.3-1.2022-

6)岩井信彦,大久保吏司ら. 臨床実習科目の成績評価-ルーブリック評価-.理学療法科学 33(2):365-367,2018

7)山野克明. 作業療法臨床実習におけるルーブリック評価の意義と課題.熊本保健科学大学研究誌 15 : 121-132,2018

8)兒玉成博・池嵯寛人ら. 言語聴覚士養成の臨床実習におけるルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討熊本保健科学大学研究誌 19, 107-115

9)服部聖子・喜多敏博ら. 患者中心の看護技術習得を支えるルーブリックの開発日本教育工学会 2023 年秋季全国大会